

10. 評価と活用

■ HIV 即日検査・相談事業評価の基本的考え方

本事業は、即日検査という利便性の高い新たな方法を導入することで、今までHIV検査を受けにくかった潜在的な希望者にも検査・相談の機会を提供し、エイズ対策に寄与しようとするものである。そこで、新しい検査・相談の質を確保するとともに、導入した検査相談がどの程度効果があったのか、導入前に想定した目標に一致しているのか、効率的に提供されているかを点検し、改善していくことが重要となる。

このために必要となる基礎的な統計数値は、常時作成する業務の記録に組み込んでおくと継続的に把握でき、また容易に点検ができる。例として、検査記録、相談記録の他に、受検者の検査前の説明・相談の際に得たアンケート結果を利用することができる。基本的項目を表3に、質問票の例を47ページ（資料3様式6）の「検査前の質問票の例」に示した。実際に用いる質問票は、利用者や地域の状況に合わせて項目を検討し、保健所等の実施機関が作成する。

受検者への質問票には、個人情報保護の観点から、①検査前後のアンケート結果は事業改善のために集計・分析し用いる場合があること、②回答したくない場合は回答しなくてもよいこと、③個人が特定される形では用いられないこと、を示した上で必要に応じて説明を補足し協力への同意を求める。

表3

HIV即日検査・相談事業における評価

| 評価の項目 | 具体的評価事項 |
|-------------|---|
| (1) 検査結果 | 迅速検査陽性数及び陽性率 確認検査陽性数及び陽性率 偽陽性数および偽陽性率 |
| (2) 利用状況 | 受検者数および受検者の性、年代、居住地など受検者状況 コンドーム使用などの予防状況等 |
| (3) 受検者の満足度 | 説明、情報提供、相談への満足度 プライバシー保護への満足度等 |
| (4) 説明相談の効果 | 知識正答率、感染予防行動調査 要確認検査の受検者の再来率 陽性者の受診率と継続相談率、 精神科等の紹介と受診率等 |

※偽陽性・偽陽性率：33ページ参照

■ 検査結果

検査は目視による判定であるため、検査技術に加え判定についても精度の保証が求められる。このため、技術的な正確さの精度管理に加え検査実績による検査精度の点検も重要である。検査件数および、迅速検査の陽性数と陽性率、確認検査の陽性数と陽性率を把握し、これら検査結果の数値からも検査精度の妥当性を評価することが重要である。

現在使用されている迅速検査キットの偽陽性率はおよそ1%であり、これを大きく上回る（2%以上の）場合は、検査試薬のロットに問題があるか検査技術や目視の判定に問題がある可能性があるため検討が必要である。確認検査陽性数と陽性率は受検者の中にどれだけHIV感染者が存在するか